

■シベリウス／「レンミンカイネン」組曲 Op.22 より

第2曲「トゥオネラの白鳥」

4つの交響詩からなる「レンミンカイネン」組曲は、フィンランドの民族抒情詩『カレワラ』に基づいて、1893年から95年にかけて作曲された。もともとはオペラ化を考えていたものの、自分の作風がオペラ向きではないと考えたジャン・シベリウス（1865—1957）は、序曲のための素材から「トゥオネラの白鳥」をまとめている。初版の楽譜には「フィンランドの神話では地獄、死の島であるトゥオネラは黒い水の流れる急流の大河に囲まれている。そこではトゥオネラの白鳥が歌いながら堂々と浮遊している」と書き込まれていた。

フルートやクラリネット、トランペットをのぞいたオーケストラが白鳥のすがたを象徴するコールアングレの独奏を支える。そこにチェロの独奏が低音から高音へと伸びるモチーフを提示し、2つのメロディによって展開される。全体が暗く神秘的な音調で推移し、弦のピチカートやハープの分散和音が色彩を添え、最後もコールアングレのトレモロとチェロの楽想で閉じられる。

白石美雪

楽器編成

オーボエ、イングリッシュ・ホルン、バス・クラリネット、ファゴット2、
ホルン4、トロンボーン3、ティンパニ、バスドラム、ハープ、弦五部

※スコア上の表記

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます